

カナダ人の

発明発見 (IX)

●カーバイドとアセチレン

トーマス(トム)・ウィルソンは、少年の頃から化学と電気に強い興味をもち、天井裏の「実験室」に何時間もこもっては、いろいろな化学式を編みだし、さまざまな装置を作っていた。やがて事故を

恐れた母親から「追い出され」たウィルソンは、ハミルトン(オンタリオ州)のベイ通りとマーケット通りの角にある空地に移り、いくつかの発明をなす。その中にはカナダでは初めてのダイナモ(発電機)とアーク灯があった。そのアーク灯を空地に設置したところ、大勢の人々がためかけ、とうとうダンガン公園に移動しなければならぬほどだった。

これに目をつけた事業家が、ウィルソンにホテルの照明を依頼した。しかし、電燈が点滅したりしてうまく行かず、事業家は契約を破棄してしまった。大借金を抱え込んだウィルソンは、借金返済のために電気化学を使って合成ダイヤモンドを作ろうともくろむ。

ダイヤモンド作りはうまくいかなかったが、その過程で電気化学の知識に磨きがかかり、彼は米国の会社で電気炉実験室の担当となる。ここで特殊なダイナモとアルミニウム抽出法を考案した彼は、

一八九一年にウィルソン・アルミニウム社を創設する。

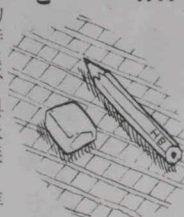
ウィルソンがアセチレンとカーバイドを発見して一躍有名になったのは、その後間もなくしてからのことだった。金属カルシウムを作ろうと、石灰とコールタールを混ぜ、それに三十六ボルト、二千アンペアの電流を流したところ、カルシウム・カーバイドとアセチレンができたのだ。アセチレンは当初照明用に広く使われたが、まもなく酸素アセチレンとして金

属の切断や溶接などに利用されるようになる。アセチレンはまた、船舶用のパイ

や肥料、初期の自動車のヘッドライトにも使われた。また重要な工業原料であるカーバイドは、ウィルソンによって初めて商業化が可能となり、彼は「カーバイドウィルソン」と呼ばれるようになった。ウィルソンは特許権を得て米国の会社(ユニオン・カーバイド)に売り、自分はカナダに帰ってカナダ初のカーバイド製造をはじめた。

読者欄

音楽家の紹介を



本紙三十三号の人物特集、興味深く拝読いたしました。次回の同様企画には、是非とも小生の好きな音楽界のカナダ人を紹介して戴きたい。小生の記憶に誤りがなければ、オペラ歌手のテレサ・ストラタス、ジョン・ウィツカース(いずれもメトロポリタン・オペラのスター)、またジャズ・ピアノの大家、オスカー・ピーターソンもカナダ人のはず。「バルジ大作戦」で日本でも一躍有名になり、「ジョーズ」、「デュープ」で令名をはせたロバート・ショーは残念ながら故人となってしまうましたが、彼に代わるポピュラーな映画スターは誰かいませんか。ああ、あの人がカナダ人だったのか、という企画を期待しています。

横浜市 山田啓介

テリー・フォックスさん、頑張ってください

カナダ特集を送っていたいてありがとうございます。私はこの特集を読んでみると、カナダのいろいろなことがわかってとてもうれいす。前々から興味をもっていたので、これからもカナダのいろいろなこと、のせてください。編集部のみなさんがんばってください。それからこの特集にのっているテリー・フォックスさんという人にはびっくりしました。がんのために足を切断したというのにマラソンをするなんて……私にはちよつと想像できません。彼は走ることによつて寄付をあつめ、そのお金をがんの研究に提供しました。彼の勇氣、意志には私はおどろくばかりです。私もこのテリー・フォックスさんのような心のもちぬしになりたいです。いつまでも、がんばってくださいることを祈ります。

愛媛県周桑郡小松町 曾我部美佐

編集後記

○一月中旬から二週間余り、カナダへ行ってきました。今冬のカナダは各地とも記録的な寒さと聞いて、防寒具に身をかためてかけましたが、訪れる先々、すべて「ここ二、三日はぐつと暖かくなりました」ということで、少々当てがはずれました。冬季にはこのように温度が一時的に上がることがあって、「一月陽気」と呼んでいるのだそうです。

○暖かくなったといつても、北緯五六・四四度のフォート・マクマレーでは零下二〇度、オタワでは零下一〇度にもなりました。オタワではこんな寒さのなかでスケートやクロス・カントリー・スキーはもちろん、ジョギングをする人も見かけました。室内ですが、カーリングも盛んでした。

○今号は教育特集です。セイウエル、関口、川上各氏の記事から、カナダの高等教育や初等、中等教育の理念や現状をご理解いただけたらと思います。

○日加国交五十周年記念の佳作論文は継続掲載の予定でしたが、スペースの都合上、今後の掲載は見合わせることにしました。ご了承ください。

(吉田)

本紙中の意見や見解は、必ずしもカナダ政府またはカナダ大使館の考え方を反映するものではありません。また公式文書の翻訳は仮訳です。転載の際は、できるだけ出典を明らかにして下さい。ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

〒100東京都港区赤坂七丁目三十三番

カナダ大使館広報部